J-SIP-B150
M7-22

全学必修知財科目における受講者の“声”に対する対応と効果

〇李鎔璟・北村真之・木村友久（山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター）

１．はじめに

山口大学では全国初となる取り組みとして 2013 年 4 月より共通教育課程において知財科目を必修化し、入学した全学生が知財教育を受けられる体制を構築した [1)]。本稿ではその全学必修知財科目において聞こえてくる受講者の生の“声”（関心のある事項や素朴な疑問等）を分析し、それに対応する Q&A の作成とその活用、効果について報告する。

２．全学必修知財科目の概要（図 1）

科目名は「科学技術と社会～〇〇学部生のための知財入門～」で、入学してくる約 2000 名の 1 年次生全員が受講する。90 分×8 回（1 単位）の講義で、クラスは全部で 11 クラス（H27 年度から 12 クラスに）、講義内容は著作権の基礎及び産業財産権の基礎となっている。講義の目的としては、最終的に受講者が、(1) 知的財産の全体像を理解すること、(2) レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など身近な事例をテーマに初歩的な知的財産対応能力を形成すること、(3) 社会活動における知的財産の価値を実感することとしている。

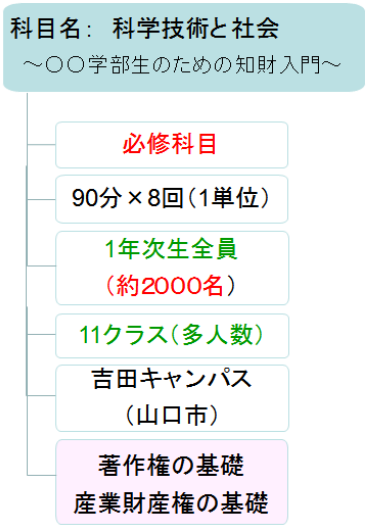

図 1　全学必修知財科目の概要

３．受講者の“声”の収集と対応の流れ

授業の大まかなフローを図 2 に示す。特徴としては、毎講義の最後の 10 分間を小レポートの記入時間としている。小レポートの記入項目は、「A. 今回の授業で事前に知っていたこと、知っていたフレーズ」、「B. 今回の講義でわからなかった、その他この授業に関連する質問」、「C. 知的財産全般に関して知りたいことや質問」、「D. 授業の感想」となっている。本研究における受講者の“声”は主に B と C の項目であり、ここから受講者の「学習のつまずきがどこにあるのか」、「どんな内容に興味があるのか」、「理解が深いところはどこか」などの観点から知財初学者が関心のある事項や素朴な疑問を抽出することができる。そして、抽出した“声”をもとに、回答スライド（Q&A）を作成し、次回講義のはじめに主な事項を抜粋して回答を行う（5 分程度）。講義時間内で説明しきれない事項については、全ての回答スライドをホームページ上にアップし、受講者がいつでもアクセス・閲覧できるようにすることで対応している（パスワードによるアクセス制限あり）。

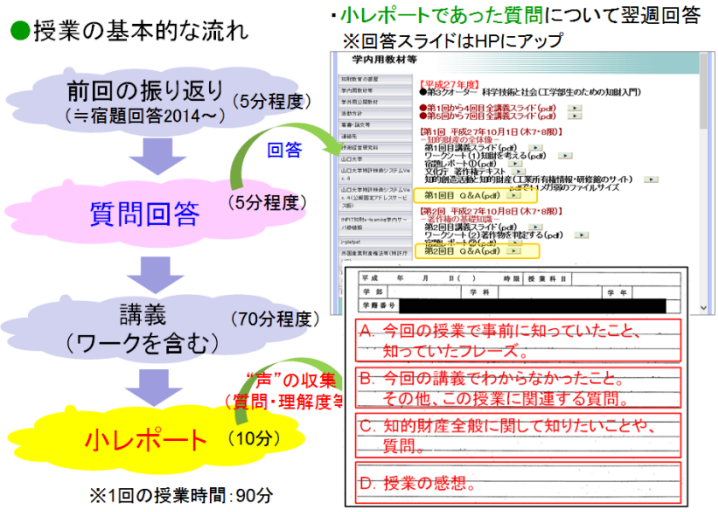

図 2　授業の基本的な流れ（※反転授業を行っている一部のクラスを除く）

４．収集・分析対象

本稿においては研究代表者（李鎔環）が担当しているクラスを、受講者の“声”の収集・分析対象としている。具体的には、平成 25 年度の 4 クラス（教育学部 1、工学部 1、工学部 2、工学部 3）の受講者計 678 名、平成 26 年度の 4 クラス（理学部、工学部 1、工学部 2、工学部 3）の受講者計 783 名、平成 27 年度は年度途中であるので 2015 年 11 月末の現在までの 3 クラス（理学部、工学部 1、工学部 2）の受講者計 581 名を対象としている。すなわち、本発表における分析対象母数は合計 2042 名と、平成 25～27 年度の全受講者数約 6000 名のうちの三分の一に該当する。

５．受講者の“声”の分析と対応する Q&A

第 1 回目の講義（内容：知的財産の全体像）における受講生の“声”を講義内容と照らしあわせて分類・体系化しもの及びそれに対応する回答スライド（Q&A）の例を図 3 に示す。

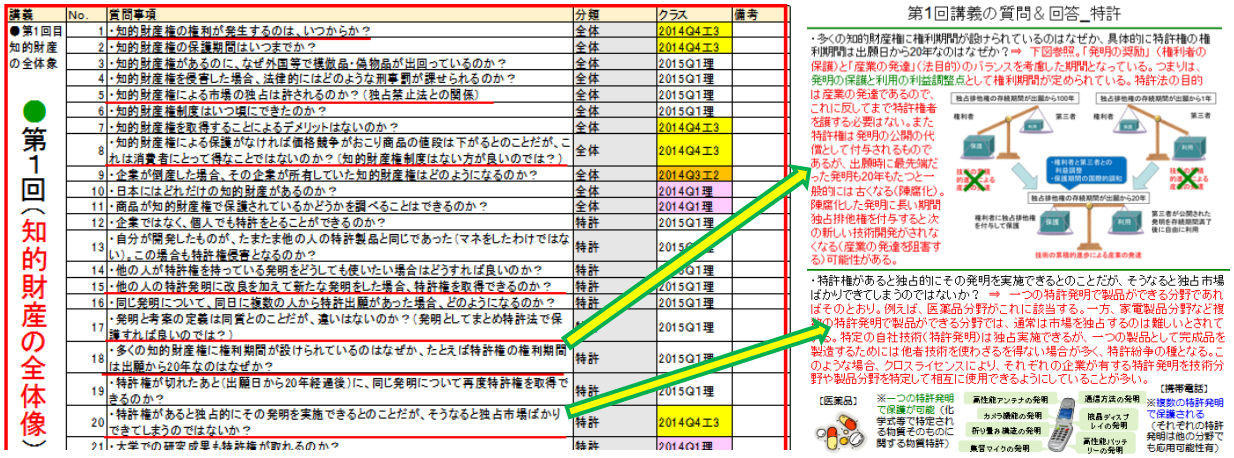

図 3　受講者の“声”の分類・体系化と対応する回答スライド（Q&A）の例

６．本取り組みよる効果

受講者による授業評価結果を図 4 に示す。評価項目は 10 項目あり、その中に質問対応の項目として「Q.7 学生の疑問や質問への対応は、充分でしたか？」がある。評価は 5 段階：5 そう思う、4 ややそう思う、3 どちらども言えない、2 あまりそう思わない、1 そう思わない、である。図 4 の平成 25 年度の工学部 1 のクラスにおいては、質問対応の評価値は 4.51 と、出席数を除く他の項目に比べ最も高い評価であった。他のクラスにおいても総じて同様な結果であり、全てのクラスで「最も高い」又は「2 番目に高い」評価が得られている。理解度や満足度も概ね 4 以上と高い評価であり、受講者の“声”の分析による Q&A は授業内容の補填ツールとして有効と考えられる。また小レポートにおける受講者のコメント（受講者自らの認識）から、受講者の“声”に対する教員側の対応によって授業との関係の深さや近さを実感し、学習意欲の向上につながっていることが伺えた。

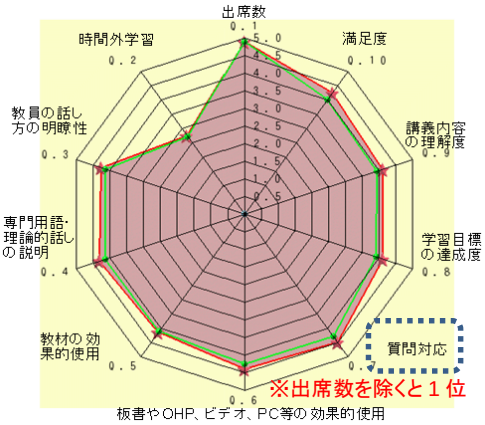

図 4　学生の授業評価（クラス：H25 年度工学部 1、評価者数：171）

※【謝辞】本研究の一部は、JSPS 科研費 15K00980：基盤研究（C）（平成 27 年度～平成 29 年度）の助成を受けて行っています。

1) 例えば、①「全学知財必修科目における授業改善取組みとそれによる効果分析」, 李鎔環・陳内秀樹・北村真之・阿濱志保里・木村友久, 産学連携学会第13 回大会, 講演予稿集, 0626E0900-4,p262-263(2015)、②「全学知財教育の実践的取り組み」, 李鎔環・北村真之・阿濱志保里・木村友久, 産学連携学会第12回大会, 講演予稿集, 0626C0910-3,p178-179(2014).　③知的財産政策ビジョン, p35 (2013.6.7. 知的財産戦略本部決定) etc.